



第38号
平成十二年
(2000)
1月15日発行
(年4回発行)

芦丈・秋香
両吟歌仙「草枯るる」の巻評注

東明雅

今年には芦丈先生の三十三回忌に当り、三月法要を予定している。考えてみれば、私は今まで芦丈先生について、いろいろ語って来たが、その作品を直接紹介した事は余りなかった。この「草枯るる」の巻は芦丈先生が、折から行脚中の俳友茂木秋香翁を伊那の芋庵に泊めて、両吟で巻かれた一巻である。

昭和八年三月十二日の日付が入っているから、先生はこの時六十歳、前年に定年退職し、伊那に帰って俳諧三昧の生活に入っておられた時である。相手の秋香翁は七十一歳、武蔵国(埼玉県)深谷の豪農、二人とも上野国(群馬県)烏洲の巨匠下平可都三の弟子であったところから、特別な親交があった。

この一巻は、先師お気に入り巻だったよ

うで、私の「芦丈翁俳諧聞書」にも一部分が掲載されている。三十三回忌を機に先生追善の意味をこめて、ここに披露する次第である。

草枯るる 両吟

蔓草のヒシと音して日に枯るる 芦丈

涸れつくしたる流れ白々 深谷 秋香

落とし行く鷺鷥の糞憎がりて

竹筒にさす張りさしの傘

月の主五位など誇る顔もせず

本草目に合はす茸の名

忌鎌に冷ゆる藪根を刈りすかし

十うも二十も鮒仔を引く

貰ひ手もなき古家の雨の漏り

むんずと挿む幽霊の裾

胸の火の焰の先や恐るべし

蚊の針痕のはれし拾ひ児

月の出て青芦原の一トそよぎ

俵の明きに囲ふ雪隠

へら弓に過ぎたうつばも顔めたし

竜か蚯蚓か判かぬ画もかく

ちる花の障子にうつる西日影

とうとう雉子に交まれし鶏

頼まぬに田打ちが畑を打ってやり

阿弥陀冠りの伊那谷笠鳴る

真白な雲黒雲に追ひ抜かれ

主従の話し絶えつ続きつ

がらがらと筆も濯がず實に捲いて

香丈 香丈 同香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈 香丈

波の穂白く縁柱嘯む
還御沙汰なくてさつさと年は去に
瑞々として碧き山松

燼で岩に一偈を書きおろし
身は露の身の罔(かかげ)を友

騎りすての駒のいななく月あかり

碓氷の碓の水も澄む秋

買手待つ餅の次第に肉の落ち

継ぎ足し庇頭つかへる

無理やりの戯れが今は真ん誠

大奉書に晴れる目録

盃の名も武蔵野の花のかげ

霞一ト引き見渡しし山

昭八・三・一二 於芦丈亭 満尾

発句と脇 三月十二日は歳時記では仲春

の頃であるが、寒国の信州ではまだ冬景色。

発句は芋庵の囀目。脇は天龍川の景。

ウラ 二句目く九句目。このあたり両巨

匠の丁々発止の付合の妙が存分に發揮されて

いる。連句のおもしろさの一つは確かにこの

ようなところにあるう。(「芦丈翁俳諧聞書」三七頁く三九頁参照)

ナオ 折立。この句は恋句の呼び出しか

も知れないが芦丈先生は応じておられない。

ナウ 三句目・四句目 これて恋が成就。

花の句、武蔵野。大盃の名。飲み(野見)

つくされぬという謎 この花の句、前句によく付いて格調の高い好句。

丈 香 丈 香 丈 香 丈 香 丈 香 丈 香 丈 香 丈 香 丈 香 丈 丈

謹賀新年

歳旦三つ物

猫養会主宰 東 明雅

神苑に龍蹄集ふ淑気かな

梅の匂ひをおこす初東風

新しき時代に一步踏みこみて

平成十二年 元旦

(二〇〇〇年)

桃径庵 式田 和子

龍宮の鯛もひらめも御慶かな
幼なが先に屠蘇の盃
ミレニアム花で繁ぐを願ひゐて

久慈庵 市野沢 弘子

2000年のわが年なりし恵方道
初空に舞ふ龍の字の風
花活けて幼馴染みと酌むならん

房連庵 内田 麻子

コンピュータ無事年明くや二千年
龍山門に打つ初太鼓
焼米螺氣の合ふ友と盃あげて

梅香庵 副島 久美子

初苗エアーズロックの影浮ぶ
漲る淑気砂の大地に
考へる葦になりたし亀鳴いて

梓庵 中川 哲

あらたまや月下の花に粉雪ちら
曾我狂言に延ばし身の辰
温み石ひっそりと抱き笑みをらん

涼月庵 中田 あかり

恵方道胸に棲むひと笹の下駄
戦無き世に仰ぐ初富士
入園児ゴジラが家来仮名読めて

唐猫庵 大窪 瑞枝

読初めや明窓浄机竹の風
玉露一服勅題の菓子
千年紀とどろとどろと龍天に

卯遊庵 蒲原 志げ子

正月や元号紀元西暦も
備蓄最適おせち屠蘇酒
大騒ぎ花に集まる声のして

冬霞庵 上月 淳子

金色に海輝きて初日かな
御慶を申す龍のおとし子
読み聞かせこびと七人賑やかに

袖菊亭 豊田 好敏

元旦や まづ大安で始まりぬ
つひにうだつ(卯辰)の上がる初夢
蛤つゆの 程よき重さ賞味して

臥猫庵 原田 千町

改年のいや重け吉事持りけり
屠蘇盃を代へてシャンパン
メガロポリスまどふ霞に潤ぶらん

恋句雑感

川野 蓼艸

私は連句を捌いていて個人的ではあるが、こんなことを感じる。恋句がよければ、他に難点があってもその作品は良く見える。

反対に全体に難はないのに恋句がばつとしなければ、どうもその作品は戴けない。

平成連句競詠の選者をやつて、《ラヴホテルにて熱き抱擁》なんて句に出会つと、もう先は見えてしまつて、こんな俗な句を採用する様な作品がいい訳はないと決めて、そこで読むのはやめてしまつた。

ここでいい恋句が欲しいと思うのに、一向に思う様な句が出ないといぢいぢする。じゃあ、自分で付けたらどうだという事になるのだが、こんな時は自分まで焦つてしまつていい句を思いつかない。

馬山人連句会に句の出来は左程ではないが発想の面白い女性が来ていた。蓼艸さん、ここから先は出来ない、代りに何か続けて！、と短冊を差し出す。見れば、二十米しか泳げぬ——と書いてあるだけ。でも私はしめた、と思った。《二十米しか泳げぬ君が最後の泳者》とわざと破調にし恋の呼び出しにした。

《女は変る紫陽花のごと》と確か久木田朱美子さんが付け、あとい恋の座となつた。

先日、プレ文化祭で広島に行ったが、座は中四国の女性が主であつた。恋句が出ない。

私はやむを得ず、《吾妹の門に矢文打ち込む》とやったら、こんな難しい恋句は自分達の会では出ない、付け難い、と言う。

何、恋人の家の郵便受けに恋文を入れたと思つて下さい、と言つた。

それならと言つて高知の女性が、泪を幾ら隠そうとしても跡が見えてしまう、という句を付けた。失恋では付き過ぎだ。泪なら程々だが、どうも句がぎくしゃくしている。

私は、何も隠さなくたっていいでしょう、高知で一番賑やかな町は何処ですか、と聞いたら、帯屋町だと言う。それなら《とめどなき泪隠さず帯屋町》ならどうですと言つたら喜んだ。その後《夢は覚めたり籤は空振り》が付いて旨く納まつた。

私が旨い恋句になつたなと思つたのは、まだ風信子が健在の頃だつた。

村野夏生氏が《マツチ箱並びて美しき町となる》とまづ出された。パブル以前、ちよつと纏まつた土地があると直ぐに建売住宅が出来たものだ。ちまちまとそれなりに洒落た町が現れたものだ。これに荻原久美子氏が《骨肉といふ兄と妹》と続けた。建売の一軒に兄妹が一緒に住むという訳だ。凄いのな次。

篠見那智氏が《冴え冴えと相対死の素手四つ》とやつた。何とこの兄妹は越えてはならぬ一線を越え、心中したので。

温雅な作風を好まれる猫蓑の方達には些かアタが強すぎて嫌われるかも知れないが、私

は捌いていて、この句に身が震えた。蓼艸さんに恋句を採つて貰おうと思えば簡単よね、要するに殺せばいいのよね、と言われた時には苦笑した。

槍の権三、という映画があつた。岩下志麻と郷ひろみが心ならずも不義密通と疑われ、やむを得ず二人で出奔する。道中、二人は本当に愛し合う様になる。画面の下に彼女の大腿部が大写しされ、上から矢張りクローズアップの彼の横顔が下りて来る。顔は彼女の大腿部に埋まる。美しい場面であつた。嫌らしさは微塵もなかつた。

この頃、蓼艸さんに恋句を採つて貰おうと思えば、女のフトモモを出せばいいのね、と言われた時も誠に心外であつた。

三歳の時、私は岡山の田舎の祖父母の元に引き取つたのだ。半年ほどして母は幾ら何でもとばかりに私を取り返しに来た。

その晩、私は母と寝た。布団に入ると母はひしと私を抱きしめた。そして私の紅葉の様な手を自分の乳房の上に当て、更にその上から自分の手を押し当てた。それは何とも柔らかく気持ちのいい若い乳房だつた。祖母の乳とは比べべくもなかつた。

しばらく私は乳房の蓼艸と呼ばれた。手の内を読まれてしまうと難しい。今は乳房をやめ新しい手を常に模索している。

(俳人・医師)

言葉による格闘技―チャット連句

井上 蘭石

リレー・エッセーの第二回目。では実際にパソコンでどのように連句を行うのかということについてお話ししましょう。

通信出身の連衆が皆奇妙な俳号をもっていることを不思議に思われる方も多いのではないでしょうか。パソコン通信に参加する際、ハンドルネームという名前を名乗ります。通信の世界では、本名を名乗ることはほとんどありません。万人が平等という思想に基づくためといわれていますが、俳号が俳席を世俗から切り離し聖なる空間となすために大いに力を発揮するのに似ています。俳席もパソコン通信も同じ聖域ということなのでしょう。パソコン通信のネットには、それぞれフォーラムとかS I Gと呼ばれる括りがあります。文芸フォーラムとか、音楽とか園芸とかというような種類で各人の興味の対象となるフォーラムにアクセスするわけです。その中にさらに会議室があり、俳句・短歌・詩等々の細かい区分けがされています。会議室の一つで連句が展開しているとご想像ください。

会議室は、公開伝言板のようなものですか、そこで行われる連句は、公開文音のようなものです。参加したい人はだれでも付け句をすることが出来ます。進行の仕方も捌きがい

て治定したり、どんどんつけ進むやり方があったりと、実際の連句と変わりはありません。一方各フォーラムにはR T (リアルタイム・トーク) あるいはO L T と呼ばれる会話機能があります。これはバーチャルなサロンです。だれかと話したいときふらつと立ち寄るクラブのようなものです。

会話はすべて文字によるものですから、パソコンの画面に次々と文字列が表示されてゆきます。「はじめまして」から「半歌仙やりませんか」まですべて文字です。

実際の俳席に近い雰囲気味わえます。まさに仮想俳席といえるでしょう。私はここで普通の行動半径では決してすれ違うこともなかったような、たくさんのかげがえのない連衆に会うことができました。

言葉が肉声に乗らない分だけ各人の背景が見え、式目に対するこだわり方や、言葉への立ち向かい方、連句への覚悟まで発露します。手紙のように一歩的な投げかけでもない活性化している文字列には言うに言われぬ不可思議な魅力があります。

連句は拳の代わりに言葉で戦う格闘技。そして満尾するころには、ずっと昔からの友達のように仲良しになっている。これは実際の俳席でも通信の世界でも変わりはありません。バーチャルな俳席を、あなたものぞきにい

≪全国連句いなみ大会≫

募集要項

作品 形式「歌仙」 脇起、独吟不可
応募料 一巻につき二〇〇〇円 (郵便小為替にてお願いします)

作品は所定の応募用紙(コピー可)を使用し、封筒の表に「連句作品」と朱書してください。

〆切 三月二十日(当日消印有効)

選者 東 明雅 土屋実郎 小林しげと

志田延義 二村文人 密田靖夫

応募先 〒九三二〇三三

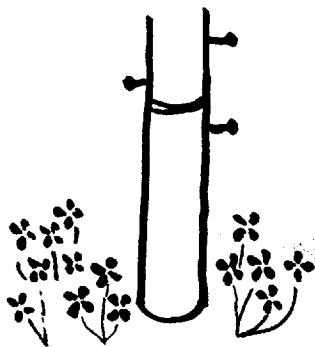
富山県東砺波郡井波町山見一四〇〇

全国連句いなみ大会実行委員会事務局

(井波町総合文化センター内)

TEL 〇七六三二八二一五八八五

FAX 〇七六三二八二一五六〇九



第二十回俳諧芭蕉忌正式俳諧

正式俳諧 脇起り二十韻

二十韻「初時雨」

東明雅捌

次第 役割

一	席改め	
二	席入り	宗匠 大窪 瑞枝
三	配硯	脇宗匠 上月 淳子
四	献花	副宗匠 蒲原志げ子
五	執筆呼び出し	執筆 橋 文子
六	文台捌き	知司 青木 秀樹
七	俳諧興行	副知司 島村 暁巳
八	花前	座配 松本 碧
九	献香	座見 日高 玲
十	花の句披露	花司 山口 美恵
十一	端作り	香元 久保田庸子
十二	吟声	配硯 本田 弥生
十三	文台返し	同 佐古 英子
十四	作品奉納	同 橋野代々子
十五	納硯	老長 市野沢弘子
十六	挨拶	
十七	退席	

「炉開きや」

炉開きや左官老い行く鬢の霜	翁
残る虫鳴く踣踣の陰	明雅
ギニョール科白渡しも即妙に	美恵
とんがり帽子ちよつと横つちよ	弥生
いつか来た海沿ひの道月皎々	淳子
フアーストキッス茱萸を含んで	暁巳
きりたんぼ田舎暮しも君となら	弘子
足に馴染んだ裏のつつかけ	庸子
騒乱の国を逃げ出す大使館	志げ子
鳥瞰図法で描いた夏山	秀樹
三角のお札雷除けに買ひ	碧
優勝マジック点けばまた消ゆ	常義
屯するトラック野郎屋台酒	英子
風邪をひいたるのら犬の月	玲
謎めいて潤む瞳に惑はされ	将義
弥陀か菩薩か吐息香はし	代々子
ラウンジの変相刻む大時計	佐紀子
卒業証書かざす学生	千寿子
歩み入る花の国原千年紀	瑞枝
気球の浮ぶうらかな空	執筆

深川や蕎麦屋を出れば初時雨

明雅

町触れ告げて疾る紺足袋

真紀

テレビにはテレビサイズの芸あらん

秀樹

あくび連発留守番の猫

利子

高原の飯の宿りに後の月

ゆみを

小倉色紙をさぐるやや寒

要

よりそはすそのきつかけの威銃

利

結婚式場客はちらほら

秀

ロボットの名を豊聡の耳皇子

真

弥勒菩薩の謎のほほゑみ

秀

蝉の声ぱたりと金環蝕の昼

真

バドワイザーで旅に乾杯

利

一ユーロ換算の間に列車発ち

真

胸がつぶれる核の臨界

ゆ

茂兵衛殿心中立を覚悟かえ

同

きゅつと泣かせて博多帯しめ

真

腰痛を治せぬほどの忙しさ

秀

和布刈の舟をそぞろ漕ぎ行く

利

月光と花をモチーフフ狂詩曲

秀

足長蜂が休止符をうつ

要

平成十一年十月二十日
於 江東区芭蕉記念館

歩み入る花の国原千年紀
気球の浮ぶうらかな空

平成十一年十月二十日首尾
於 江東区芭蕉記念館

連衆 別所真紀 青木秀樹 梅田利子
青島ゆみを 梓沢要

二十韻「時雨忌や」

青木 泉水 捌

二十韻「水脈しづか」

秋山 志世子 捌

二十韻「しぐれ忌や」

副島 久美子 捌

時雨忌やここ深川のあさりめし

泉水

芭蕉忌や川下る舟水脈しづか

志世子

しぐれ忌や無事金繰りも船繰りも

実郎

息白くして集ふ連衆

啓子

真菰のかけに眠る鳩

瑞枝

盃かたむける短日の膳

将義

カラー刷りスポーツ新聞ポケットに

和子

ハーブティー読みさしの本葉して

蓉子

モバイルのゆらりと向きの変るらん

清子

リズム時計の急に鳴り出す

世止彌

ぜんまい時計油ささねば

道子

時々うす目開けてゐる犬

弘子

吊し柿鄙びし村を照らす月

慎二

夕刊を配る少年月の道

守男

公園に青松虫を探す子等

かりん

呼び返さるる秋の祭りに

和

糸瓜ぶらりと下がる石垣

さえ子

ゑのころ草で彼にいたづら

久美子

そぞろ寒邪奈の女に魅入られて

彌

秘めし言秋刀魚の腸のほろ苦く

蓉

月の縁嫌ひな筈が好きになり

弘

危険いっばいネット恋愛

啓

女房再び取り替へて候

道

般若心経是の字いっばい

清

ニコチンを売って百億賠償し

二

カーナビに頼りきつたる楫さばき

蓉

川沿ひに部落作りしホームレス

郎

鴉かあかあ糞かけて去る

啓

自自公選挙行方混沌

枝

現代版の赤ひげも居る

ん

刺あれど夢くひちぎる猿のゐて

和

「猩猩」の辻まで聞ゆ夏の朝

さ

妖精が飛ぶハンモックの夢

義

月に酌み合ふ水番の小屋

啓

厚底の靴によるめく影法師

男

指切りてガラスの靴に合はす姉

ん

鳴神をどこ吹く風と互先

二

男と男おお手手つないで

道

単身赴任妻は借物

郎

昔とつたる杵柄に惚れ

和

憂国の志士を囲める楯の会

枝

終列車雪原ゆけば月斜め

清

車椅子押さるる主はダンディーさん

彌

磨きに磨く吟醸の酒

道

滑り止めにも落ちる甚六

清

金箔の額に納める表彰状

泉

介護保険うまくゆくかな二千年

さ

鴉にもIQといふものあり

弘

吾子の入学報告に行く

啓

春の叙勲の父に付添ひ

男

アコーディオンの音のうららか

清

花豊か積みし花びら馥郁と

彌

薄墨の花に目覚めの嬉しさよ

道

ブータンの秘境に仰ぐ花大樹

久

納税すませうらかな道

二

分水嶺を越えし蝶蝶

蓉

袖だたみする春の外套

ん

* 囲碁で互いに交代で先手を打つこと

平成十一年十月二十日首尾

於 江東区芭蕉記念館

連衆 小池啓子 式田和子

佐藤世止彌 鈴木慎二

平成十一年十月二十日首尾

於 江東区芭蕉記念館

連衆 大窪瑞枝 五味蓉子 加藤道子

近藤守男 難波さえ子

平成十一年十月二十日首尾

於 江東区芭蕉記念館

連衆 土屋実郎 川名将義 下鉢清子

市野沢弘子 登坂かりん

二十韻「むかし脚絆の」 椿紀子捌

時雨るるやむかし脚絆のひとの旅 紀子

浮寝鳥にもかける一声 志げ子

炊飯器テレビ見やりつセットして 英二

クロスパズルの詰めのためこれ 代々子

様々な異名ゆかしき月のかほ 澄子

勢ひ余りて踊子の恋 政志

落としたるピアスを探す芒原 二

ナマケモノにはなつてくれるな 澄

世紀末あちらこちらが崩壊し 代

包丁研いで何をしようか 志

鯉祭錦市場に人の波 志

月ちりぢりに夏惜しむ川 志

吹き上げるトランプットはニニ・ロツンげ 二

なにより赤の好きな君なり 代

椅子に倚る纏足抱き口づけを 代

神の御手に奪はるるもの 紀

貧しくも幸ひのあれ遠き山 二

蟻穴出つと子らの歓声 澄

まみえたる八十路の花よ干す盃よ げ

朝寝の果は竜に乗る夢 志

平成十一年十月二十日首尾

於 江東区芭蕉記念館

連衆 蒲原志げ子 日高英二

橋野代々子 八角澄子 峯田政志

二十韻「初時雨」 長崎和代捌

深川に川の匂ひや初時雨 和代

散りこぼれつつ庵の山茶花 達子

西・東・旅の話のにぎはひて 麻子

バカラに注ぐロマネコンティ 満子

良い月と即興で弾くマンドリン 水壺

そぞろ寒しと肩を抱かれ 安子

従兄弟とはほろ苦き仲蔓道草 麻

コンビニストア増えるこの頃 達

辻々に何やら教がピラ配り 壺

眼鏡かけかへ介護法読む 安

釣堀に小言逃れて暇つぶし 満

蝙蝠かすめ細き月あり 麻

端正なドラキュラ伯が城の主 達

娘十八こはさしらない 麻

賽の目の出やう次第の玉の輿 壺

オーレオレオレめざせシンドニー 達

休みなく島は噴煙高く上げ 満

動くともなく動く畑打ち 壺

弘子振る方丈さまの花の昼 安

祝ひ事終へきざす春愁 麻

平成十一年十月二十日首尾

於 江東区芭蕉記念館

連衆 篠原達子 内田麻子 田村満子

今宮水壺 神谷安子

二十韻「深川や」 東郁子捌

深川や軒すれすれの冬かもめ 郁子

開き初めたる庵の山茶花 淳子

届きたる贈呈の本開きゐて 碧

色鉛筆で漫画描く子ら 佐紀子

人通り途切れし街に小望月 治子

竈馬に似たる彼の挑発 健悟

鈴なりのりんご揺らして語る恋 淑代

ブロードウエーの夢は遙かに 悟

雨に濡れ SONY・HONDAの広告塔 代

合併劇は仏顔して 淳

水くさい冷酒をおごられ俄酔ひ 悟

夏風邪のままてつぼうをする 佐

チャリティーの舞台で歌ふ太き声 同

自慢のパエリヤ食べて頂戴 淳

寒月に抱き終電車乗り遅れ 碧

巨岩銘石僧院の庭 代

山々へ役の行者の跡たどる 碧

可愛さについ拾ふ猫の仔 治

卒寿にて舞へるひとさし花の下 治

新米ガイドうらかな旅 淳

平成十一年十月二十日首尾

於 江東区芭蕉記念館

連衆 上月淳子 松本碧 間佐紀子

加藤治子 佛淵健悟

二十韻「水の色」

百武冬乃捌

二十韻「長く短く」

村田富美捌

二十韻「翁忌や」

若尾よしえ捌

大川や時雨うべなふ水の色

冬乃

一日の長く短く芭蕉の忌

富美

翁忌や鉢の稲穂も時雨居り

よしえ

紅葉はらりと散りそむる庵

嫺

初霜を置く庵の石橋

文子

船のマストに止まる胸黒

好敏

ブティックの社員旅行の賑やかに

暁巳

テディベア抱く子の背より大きくて

美恵

ハーモニ―誰言ふとなく歌生れて

孝子

半年待ちしカット気に入り

千寿子

ごはんですよの声遠くより

常義

二弦琴弾く草原の夕

英子

暈の月臨界事故の電光板

しげと

昼月に竿高く干す割烹着

弥生

「馬上杯」今宵の月に傾けん

玲

甕の鈴虫児らが育てる

あかり

華奢な素足にへちま水つけ

一恵

黒き瞳のロザリオの冷え

昌子

牧閉ざし暗号で書くダイアリー

嫺

君の手の肩に重たき秋祭り

路子

身持ち良き君の心の胡桃割り

玲

ロメオ気取って奪ふ唇

と

バージニアスリムうっすらと紅

美

また合併の財界の地図

孝

影絵劇世継ぎの王子巨きな眼

巳

どよめきの株急落のウォール街

一

管公のたたりぢやないか世紀末

敏

田亀料理の屋台梯子す

子

深呼吸して重役の前

義

風に振り向く芸能の尉

孝

十字切る挨拶床し神父さま

嫺

土用芝居の化け物の月

文

物を縫ふ京の町屋の内涼し

玲

朝日に姿正す黒姫山

と

船嫌い飛行機嫌いバイク駆る

同

インターネットで取る注文

昌

次々とハングライダー地を蹴って

巳

チャドルの美女の明眸に惚れ

一

香菜が砒素中毒に効くと云ふ

英

アイドルを追ふ乾杯の渦

り

遺伝子を組み替え恋に強くなり

生

やつと覚える皆の体操

同

夢占で選んだ男と初閨魔

子

十字を切ってそれでお仕舞い

美

有明のぶつかり稽古息白く

敏

釘抜き探す炭小屋の月

巳

核燃料バケツで運ぶ町工場

路

輝の足包む掌

玲

村おこし爺婆も弾くヴァイオリン

子

ちひろが描く蝶のやさしさ

美

総領は親そっくりな愛経験

英

後生頼んでお文唱へる

と

次世紀へ夢を託して植うる花

路

蝶の行方を見失ふ夢

玲

美術館玻璃戸流るる飛花落花

乃

春のうららの愉しコーラス

生

クレヨンピンク一色花の山

昌

仔猫の欠伸尻尾くねらせ

り

春のうららの愉しコーラス

生

春盛り上がる母の洋菓子

孝

平成十一年十月二十日首尾

於 江東区芭蕉記念館

連衆 八代嫺 島村暁巳 紺野千寿子 小林しげと 中田あかり

平成十一年十月二十日首尾

於 江東区芭蕉記念館

連衆 橋文子 山口美恵 生多日常義 本田弥生 山崎一恵 倉本路子

平成十一年十月二十日首尾

於 江東区芭蕉記念館

連衆 豊田好敏 坂本孝子 佐古英子 日高玲 中野昌子

二 猫養今昔

大塚 瑞枝

今は昔、ACC三年の私にそろそろ稽古捌きの番が回るかといった頃の話。さる先輩が言ったそうです。「つまらない席に出て大事な句を無駄にされたくない。」今でもこんな思いを秘める人がいるでしょうか。

昔の猫養は怖かった。今日は連句と言う日はこの一日何としのごうかと殆ど修羅場の気分でした。式目、付け味めくら滅法に、何が何でも手当たり次第、付けまくって、もう犬掻きでも何でもしていなければ怒ちぶくぶくお陀仏というわけです。当時でも私以外の人はゆとりをもって連句を楽しんでいたのかも知れませんが、連句鑑賞の手引きを聴講するつもりで教室に入った私は、装束なしで火事場に飛び込んだ弥次馬でした。正に草創期の猫養は、蕉風伝道の理想に燃えた先生と、生徒のごとくに師を困む才きらびやかな少数精鋭の弟子たちとの熱い火照りの場だったので。先輩の後輩のといつても猫養キャリヤーからすれば数年の差で、言わば横一列のようなもの、切磋琢磨のダイヤと鋼鉄でこそあれ、アドバイスしたり保護したり、そんなやわな関係ではありません。だから当時はあっさり消える人も多かったように思います。でも皆さん自分の勉強に夢中であまり気にもされま

せんでした。

積極的に猫養として後輩育成が意識され、方法が講じられるようになったのは、こうして去る者は去り、頭ひとつ抜ける者が抜け切つて、猫養創成期の星雲状態にはつきりした形がついてからのことでしょう。早くにドロップアウトして仲間のちまちました連句会で縁をつないでいた私の眼に、その後の猫養人の替わり様は驚きでした。水に突き落として泳ぎを覚えさせるといった野蛮さはもうありません。指導要領も整い、よちよち歩きを手取るようにして褒めつつ教えられるらしいのです。作品も手堅く品よく、適当に笑いあり涙あり、古今東西の知識を網羅してそれももう眼を見張る程お上手です。

歌仙一卷捌きを中心に黙々と句を案じたり、議論百出おしゃべりの渦になったり、句上げのため、この句を誰それに上げての貰つての、一直の二直のと巻き進む一座を見るとつい思ひ出す光景があります。今もあるかどうか古きよきアメリカの奥さん達には端布を持ち寄つてキルトを刺すパーティーなどというものがありません。リーダー格の人がデザインを考えて皆で一枚の大作を完成したり、各自が自分のやりかけの作品にかかっていたり、もちろんお茶とおしゃべり付きの楽しい午後の一時です。その端布のかわりに言葉を使つてしているのが連句ではないか。

もう誰も自分の句のかけがえのなさなどと

いう野暮を言う人はいません。捌きの美意識に貫かれた一卷の完成のための連衆であり、連衆の自我の主張のための一卷ではないと正しく納得しています。連衆の提出する一句はあくまでキルトの端布に過ぎません。

望ましい連衆というのは、この端布を材質、色、柄各種広く取り揃えて、捌きの意向を機敏に察し、映りのいいものをみつくるつてくれる人の事です。いくら立派でも唐錦一本槍では連句にはなりません。要は捌きのセンスでの取り合わせですから、皆さん自分の句が惨憺たる一直を被つたり稀には夢のような名句になったり、被害加害それぞれ覚えのあるところでしょう。この上更に句上げのための名義変更があります。今、句の下にそれぞれ連衆の名前は付いているけれど、どれほどの意味があるでしょうか。自分の句の独創にパテントを要求したい人は外のジャンルに替わる外はありません。

事実、連衆とは烏帽子を被つて威張っている鶴匠(捌き)に魚(句)を吐き出さされている鶴みたいなもので、とてもやってられないとか連句を去つた人もいましたが、今や猫養会は皆さん真に理解が早く、かなりの水準で連句という知的遊戯を楽しむ段階に至つたと云えるのではないのでしょうか。

では前記鶴の局や、冒頭先輩は連句から締めだされて当然なのでしょうか？

浅賀 淑代

新しいミレニアムの最初の年が明けました。
 まずは古きをたずね、百人一首、春の歌より。
 君がためはるの野に出てわかなつむ

わが衣手に雪はふりつつ

光孝天皇(『古今集』巻1春上一二)

天皇が皇子でおわす頃ー当時、若菜摘みは
 まだ宮廷の年中行事となっていなかったそう
 ですが、人に若菜を贈るに添えられた一首。
 これに美しい英訳があります。

MOTHER, for thy sake I have been (8)

Where the wakana grow (6)

To bring thee back some fresh

green leaves; (8)

And see-my koromo (6)

Is sprinkled with the snow! (6)

("A HUNDRED VERSES FROM OLD JAPAN"

Charles E. Tuttle Co. 刊よら)

若菜を贈られたお相手が母君であつたかど
 うかの考証はさておき、音読してみると、ユ
 ニークな調べが確認できます。(括弧内の数
 字は参考までにシラブルの数です)。

訳著者William N. Porter は序に「日本の
 詩歌は自分たちの馴染み親しんでいるものと
 は大きく異なっている。頭韻も脚韻もない。
 もし何らかの韻律があるとしても私たちには

ほとんど理解できない。(中略)短歌は五行、
 三十一音節、即ち57577と配列されるの
 だが、私たちの耳には変わった韻律である。
 原型に少しでも似た形をとどめつつ、英語読
 者に馴染みのある響きを提供したいと考えて、
 翻訳には五行詩、二・四・五行目に韻を踏む
 86866の韻律を採用した」と述べていま
 すが、興味深いところです。

短歌の上の句下の句の呼応と、連句の長句
 短句の付合の呼応とは異なるのですが、詠み
 手が前句の調べも鑑賞しつつ次句を生んでゆ
 くレンクに、ハイクの定型とされる韻律(5
 75・77)の連なりが適するののか?レンク
 に相応しい響きを生む韻律・音律の法則があ
 るとすれば?と考えるヒントになりそうです。
 さて二十韻「ねこの子」は、ナオ5、6。

今回は、AIR (国際連句協会)のメンバ
 ーでイギリス出身のニール・ロビーさん、同メ
 ンバーの谷地元瑛子さんの付合です。

ナオ4 真夏の月から墜ちたET 富子

5 across the restaurant

former lovers'

jealous looks

(食堂に過去の女ら嫉妬の目 ニール)

6 shoulders not touching

Victoria Peak

(ビクトリアピーク肩も寄せずに 瑛子)

ETから一転、恋の現場に。映画の一シー
 ンを垣間見るようですね。では、次句を。

* 連句と酒 *

「一升瓶」

今宮 水壺

これも昔、下宿の、わりに広い板の
 間で子供相手の(絵の教室)をやつて
 いたことがあります。

べそをかきながらクレヨンをぐいぐ
 い紙にこすりつける子。腹這いになつ
 て描く子。モデルになった(先生)を
 案山子そっくりに描く天才児、等々。

そんな中に、たいへんおとなしくて
 礼儀正しい女の子が一人いました。は
 じめに来た時が小学校の二年生。それ
 から卒業するまで五年間、ほとんど休
 みなしで、まじめに描き続けました。

そしていよいよ(絵の教室)最後の
 日、お母さんもついて来て御挨拶をさ
 れました。

「ほんとうに長い間有難うございま
 した。昨日、これまでに描いた絵を取
 り出してみましたら、こんなにたくさ
 ん・・・」と指で厚みを見せて、クス
 クス笑いながら「その中で一升瓶を描
 いたのが〇十枚くらい・・・」

◇ 猫養会案内 ◇

連句頭

○ 奉納正式俳諧

日時 四月二十五日(火) 十二時より

正式俳諧のあと二十韻興行

場所 亀戸天神社

江東区亀戸三十一

○ 亀戸天神社 藤浪俳句会

日時 五月七日(日) 受付十一時

場所 亀戸天神社 参集殿

兼題 「緑」未発表作品二句に会費一千元

(郵便小為替)を添えてご投句下

さい。何組にても可。

用紙 規定の投句用紙、又は二〇〇字原

稿用紙(B5判)。

切 三月十五日必着

席題 当日出題 午後一時締切

会費 一千元

投句先 〒一三六〇〇七一江東区亀戸三十一

六一 亀戸天神社「藤浪俳句会」係

選者 小澤 實

東 明雅

式田 和子

川野 嘉彦

主催 亀戸天神社

佛洵 健悟

去年今年つらぬく鬼平犯科帳、などと言つては申し訳ないが、一年の終わりと始めは池波正太郎の文庫本にとりついていていた。お蔭でいまだに積み残しの宿題がある。

白状すると、それまでこの有名な小説を活字では読んでおらず、鬼平が行きつけの「五鉄」と同じ屋号の軍鶏鍋屋で相づち打ったりなど、少々恥ずかしく思っていたのである。テレビもなかなか良かったが、読まなければ見えないものはあるようだ。

池波ファンとは、この鬼平こと火盜改め長谷川平蔵の昼夜を問わぬ悪との闘いに魅せられた人達のことなのだろうが、どこまでも大衆性ということから離れず、それでいて飽きさせない「クセになる面白さ」は、これは連句に通じる世界だなど、我田引水せずにはおれなかった。

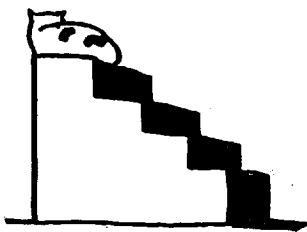
役人らしからぬ、型にとられない鬼平の活躍に加え、登場する悪党どものなんと多彩であることか。彼らのつばぜりあいする舞台も書割りのようではなく、大江戸の匂いを錯覚させるような「本当らしさ」をしつらえていく。連句における「地」と「図」の配合のよろしさに通じるように思うのである。

盗人には真の盗人と外道の盗人がある。前

者は周到な事前準備を行い、「人を泣かせず、あやめず、犯さず」という美学を持ち、「お勤メ」の自覚を持っている。外道はそうした何にもとらわれず、後は野となれ山となれの「急ぎ働き」をする。

真の盗人というひとりよがりな正当化も困ったものには違いないが、大真面目に開き直られると説得力がある、と言って悪ければ、彼らがそこに在ることを認めずにはいられないようになってくる。この世という舞台で、悪と善の極に引き剥がされてはいるが、生きているものの哀しみの影をどの人物もまとっている。これっぽちの同情もしにくい悪もいるけれど、彼らとても正義を輝かすために呼び出された暗黒なのである。

こうした人物造形の確かさは、連句で言えば一句の強さということになるかと思うが、虚構の力が十全に染み渡ってこそ、夢を見、夢を見させる連句の世界が開かれるのだろう。結局は今年もまた連句頭で過ごすことになるのだろうかという、そんな滑り出しである。



【Q】 文音をやりたいたいと思っておりますが、文音の作法などありましたらお教え下さい。

【A】 文音とは連衆と一座して一巻を満尾するのではなく、手紙・ハガキ・電話・ファックスなどによって、句を付け合う方法です。

Aが発句を三句作ってBに送ると、Bはそこから一句を選んで、その句に脇を三句付けてAに返します。するとAはまたその三句の中から一句を選んで、その脇に今度は第三を三句付けてBに返すという風にして、挙句まで進み、一巻を巻き上げるのです。特別な場合には一句だけで応酬することもないではありませんが、それはお互いの選句の楽しみを奪い、あるいは選句の資格を認めぬ事にもなりかねません。要するに対吟する人に失礼にならぬよう。これが文音の作法の基本です。尤も、昔は互いに五句ずつ遣り取りする作法が守られておりましたが、現代では簡便な三句付けの方がよろこばれ、段々定着して来ました。

それで文音を始めるには、熟知の間柄なら別ですが、そうでない場合は、お互いに、どのような形式の連句を、どの位のスピードで作る心算なのか、大体のところを決めておく方がよろしいと思います。その点の合意がないと、後でいろいろ悶着がおこる可能性があります。

るからです。

文音の人数は、もちろん何人でも出来るわけですが、たとえば追善百韻の付け廻しなどを除いて、せいぜい三・四人ぐらいまでが最適ではないでしょうか。あまり多いと連衆心のない人が紛れこむ恐れがあり、一巻の気分も滅茶苦茶になってしまうものです。

文音の連句では、実際の一座の楽しい雰囲気味わえないかわりに、前句を貰ってからの付句を十分考え、それを練る時間がたつぷりあることが最大の特色であり長所でもあります。ただ、それに溺れてしまうと、前句を聞いて即座にそれに応ずる、いわゆる丁々発止のおもしろさがなくなり、また時間があるのにまかせて凝った句ばかりを付けると、一巻が重くなつて生気を失う危険性も出て来ます。またあまり返句が遅いと、折角盛り上がっている連衆の気分注水結果になりかねません。出来るだけ早く返句するよう心掛けるべきであります。

ハガキの書き方も別にきまりはありません。たとえば「文音歌仙 春愁の巻」と第一行に書き、「オ3 石尊搔き海猫ふり仰ぐこと
もなし 貴什」と次の行に書いたあとは、「オ4 潮に濡れて光る袖口 拙次」・「乳ほしがりてぐずる背の児 拙次」等、自句を三句、余白は何を書いてよいのです。さらに文音が終ったら、必ず校合・清書して、一巻の反省をすることが望ましいです。

◇ 猫養発展基金ご協力有難うございます。

一万円 浅野欣也
五万円 米谷貞子

(敬称略)

◇ 基金の口座 富士銀行新宿西口支店
普通3376045 猫養基金

.....\$.....\$.....
あとがき

○ 「ミレニアム(千年紀)」という言葉がどれくらい使われただろう。そして来年は二十一世紀であり、今年はその世紀末。フィバーがもう一度繰り返されるのだろうか。
○ 天気の良いかな正月でした。何か人間だけが勝手に忙しがっているような。寒明けまでもう暫くです。風邪など召されませぬよう。

季刊 「ねこみの通信」第三十八号

発行者 猫養連句会

編集人 町田市金井6-7-6 佛淵健悟

〒一九五〇〇七二

印刷所 アトリエ・Neko。